

日本学生オリエンテーリング選手権リレー女子 2010年3月14日 栃木県日光市

23年。椋山女学園大学歴代の選手たちが夢に見続けてきた優勝カップ。

2010年3月14日 栃木県日光市
2009年度日本学生オリエンテーリング選手権大会リレー競技部門女子

1	椋山女学園大学	2:26:48
2	東北大学	2:32:18
3	宮城学院女子大学	2:41:03
4	岩手大学	2:45:51
	筑波/新潟	2:49:06
5	東京農工大学	2:52:35
6	金沢大学	3:06:39
	相模女子/北里	3:06:47
	お茶女/立教/獨協	3:22:17
7	日本女子大学	3:26:57
8	十文字女子大学	3:41:24
9	津田塾大学	3:45:14
10	実践女子大学	3:51:59
11	奈良女子大学	3:55:11
12	京都女子大学	4:03:41
	千葉大学	DISQ



椋山女学園大学のウィニングラン。左から2走小玉、3走水野、1走柴田。

椋山23年挑戦の歴史

インカレにリレー競技が導入されてから26年。昨年に続き、また新たな大学が女子選手権を獲得した。1988年から、毎年チームを送り続け、前はあと一歩のところまで東北大学に逆転を許した椋山女学園大学が、23回目の挑戦にして、ついに悲願の初優勝を遂げた。

レース前から前評判の高かった東北大学と椋山女学園大学。両校は絶対的エースがいない中、総合力で戦う戦力を整えてきた。レースは両者とも実力を発揮して、最後までもつれる見ごたえのある展開となった。

優勝を目指して

東北大学は女子部員が途絶えていた時期があったが、阿部ゆかり（2009年卒）が入部してから状況は好転する。2008年3月の奈良インカレで5年ぶりに女子選手権に出場、1走鈴木聡子（2年）、2走本間理紗（1年）が好走し、3走阿部（3年）が復活の3位入賞を決めた。昨年は3走阿部が15分近い差を逆転し、初優勝を果たした（1走江幡禎子（3年）、2走本間）。絶対的エースの阿部が抜けた今回は、昨年にも増して団結力が増し、チームの底上げに成功した。2連覇を狙うオーダーは1走に

JWOC09代表の大沼由佳（2年）、2走は好調の佐野まどか（2年）、3走は2年ぶりのリレー選手権となる鈴木。抜群の安定感で信頼度の高い本間、スピードが魅力の江幡という昨年の優勝メンバー2人を外し、注目の成長株である2年生2人を起用した。「女子部員全員で集まって話し合いを続けて決めた」（鈴木）オーダーで、「決まった後も本間さんを中心に話し合いを進めた」（佐野）。「椋山との一騎打ちになることを想定して」（大沼）準備を進めてきた。

対する椋山女学園大学は昨年、出場22回目にして初の入賞（2位）を果たしている（1走花井理沙（3年）、2走疋田はるか（4年）、3走青山由希菜（4年））が、終盤に逆転された分だけ悔しさが残るものとなった。今回は優勝を絶対的目標として取り組んできた。オーダーは1走にインカレロングで2年連続入賞の柴田彩名（3年）、2走はJWOC09代表小玉千晴（2年）、3走は主将の水野日香里（3年）。こちらも前回準優勝の立役者の花井を外して、伸び盛りの小玉を起用した。水野は「メンバーが決まる前も決まった後も4人で

意思疎通を図りながら、東北と競る状況を繰り返しイメージしてきた。」と振り返る。

両校とも想定内の展開

レースは落ち着いた形で始まった。柴田は序盤にルートミスをしたために前に出られない状態ではあったが、徐々に落ち着きを取り戻していく。「他の人よりも主に自分の感覚を信じて調整していた私は青山コーチに、仲間と時間を共有する気持ちが大切と教えられて、できるだけたくさんの時間を皆と一緒に過ごしてきました。すると少しずつ凝り固まっていた考えが解れて、ミス直後も2走3走がいるから大丈夫と以前より何倍も強く2人を信頼してレースに挑むことができました。」という柴田は順位を上げて行く。

実力者の新井宏美（新潟大3年）が2年連続のトップゴールを果たすと、1分40秒遅れてこちらも注目の2年生菊池ひかる（宮城学院女子大2年）が健闘して2位、その直後に柴田が中継した。トップと2分差、東北大学よりも前での中継は予定通りの滑り出しである。そこから3分開いて、大健闘の新

人島山真紀(岩手大1年)、チームのために抜け出したかった星野智子(津田塾大2年)、大沼が続いた。「2走で逆転するのが理想、そのために1走で椋山から離れたくなかった」と言う大沼。3分差は射程圏内、十分な働きだった。



東北大学の1走大沼(右)と佐野。この二人に象徴されるように若手の台頭がチームを勢いづけた。

2走に入ると、小玉と佐野は揃って順位を上げて行く。今回から、2走の距離が1、3走に比べて短くなっている。これは学生競技者の減少による措置であるが、両校にとってはその層の厚さを見せつける区間となった。

小玉は「ロングの後から、リレーで優勝に貢献するために自分に必要なことは何かを考えて、私は経験値をあげなければと思い、この冬はいっぱい走らなければ、大会に遠征したりした。」その過程で、日光のトレインに対する適性を開花させることになる。前日のミドルでは7位に入ったことも自信になっていた。

中間ラジコンでは宮城学院女子大学が1位で通過とコールされたが、実際は小玉がトップに立っていたと思われる。椋山女学園大学の通過情報が入らなかったが、このとき柴田も水野も「たまたま情報から漏れただけでとくに通過しているはず」と、まったく気にする様子もなく小玉を信頼して待っていた。そしてスペクテーターズレーンを通る時には独走状態。「1位に立ったことが分かって調子に乗って」(小玉)終盤で3分のミスをしたために佐野に追い上げられたが、貯金を残して3走につないだ。「中盤までは快調だったのに、終盤にミスが続けてしまった。後でレースを振り返ると反省点も多い。」というものの、期待通りの走りだったと言える。一方の佐野も「私のところで逆転したかったけど」とは言いながら、14秒差まで縮めた走りは見ごたえがあった。その後、3位で常住沙織(筑波大4年)が現れるまで、実に10分もかかることになったことから、二人の充実ぶりがうかがえる。



椋山女学園大学の2走小玉(右)から3走水野への中継。すぐ後ろに東北大学が迫っていた。

3走の鈴木と水野はともに前日のミドルで入賞を果たし、両校のアンカーにふさわしい仕上がりを見せていた。

14秒差で追う鈴木は「2走が終わった時点で1位か椋山と競っていたら優勝の可能性は十分にある。1走と2走はイメージ通りしっかり走ってくれた。」水野は、「東北大学の走順も展開もまったく予想通り。2走で逆転されていると予想していたけど。」ともに思惑通りの展開ではあったが、インカレでの実績に勝る鈴木を水野が追い詰めていくことになる。「ディスクリプションを見たら、登距離が一番低いパターンだったので気が楽になった。」(水野)

鈴木は序盤に逆転したが、二人のこの状況の捉え方は対照的だった。鈴木は、「こんなに早く前に出られるとは思ってなくてちょっと焦ってしまった。」一方の水野は「これで本当に想定通りの追う展開になった。」

その後、パターンの振り分けで鈴木がやや遠いコントロールに向かうと水野が抜け出し、「一人になったら調子が上がってきて」徐々に鈴木を引き離していった。結局水野は、全体でもっともよいタイムをたたき出し、鈴木を5分引き離してウィニングランを決めた。

来年度に向けて

東北大学はこの1年で、女子部員全員の成長を実感し、チームとしても非常に機能した実りの多い1年だった。それでも連覇を果たすことはできなかった。鈴木と江幡が抜けても、まだまだ選手権候補者をあげればきりが無い。大沼と佐野は「来年も層の厚さを見せるために選手権・併設ともに優勝することを目指す。」とまったく同じ意気込みを語った。鈴木は「後輩たちがどれだけ伸びるか楽しみ。」と。東北大学は男子が長年にわたり学生界の中心を担ってきているし、部員も多く、王座奪回に向けて、環境は既に整っていると云ってよい。

受けて立つ椋山女学園大学も今回走ったメンバーが3人も残る。それに

続く戦力が力不足の感はあるが、ここ数年、3年生が大きく伸びてきた。今年度も新入生の反応は良く、駒が揃いつつあるだけに、これからも注目される続けるチームとなるだろう。

部員が増加している両校だけでなく、岩手大学、岩手県立大学など下級生の活躍が目立って今後が楽しみだと思わせる大学も見られた。

椋山女学園大の新しい歴史

冒頭で書いたように、椋山女学園大学は学生オリエンテリング界の黎明期から部が設立され、毎年のようにインカレの舞台に選手を送り込んできていたが、入賞候補として名前が挙がるようになったのは最近になってからである。昨年は準優勝だが、それ以前は、2007年3月に入賞まであと26秒の7位になったのが最高である(岩橋、水野利、村上)。入賞圏内で中継できたことに限っても、1998年までさかのぼらなければならない(1走青木4位)。

「以前は、椋山に優勝は無理、と言われていましたが、歴代の先輩方が少しずつ改革を始めて優勝への道筋を切り開いてくださいました。私たちは先輩の背中を見てそこを進んで行っただけです。名古屋大学も含めて、歴代の先輩方や支えてくれた地域クラブの皆様のおかげで優勝出来ました。ありがとうございました。リレー初優勝という目標に向けて取り組んできたけど、そこには歴代のたくさんの卒業生を含めた大勢の気持ちがかめられていんだと感じます。」(柴田)

椋山女学園大学

1949年に家政学部の女子大学として開学。現在では、日本の女子大学で最大の7学部に5600人の学生が学んでいる。本部は愛知県名古屋市。オリエンテリング部は学内で最も部員の多い体育会系クラブの一つ。

過去のインカレリレー成績は、1988年から順に、15位・13位・16位・15位・17位・23位・DNQ・22位・14位・DNQ・DNQ・DNQ・DNQ・20位・DNQ・10位・11位・14位・7位・8位・2位・1位。個人ではロングで柴田彩名が2008年に5位に入り、大学史上初の入賞。2009年にミドルで青山由希菜、ロングで柴田が入賞し、今回のミドルで水野日香里が3人目(4回目)の入賞を果たした。

資料提供:

OLC ルーパー、椋山女学園大学 HP

(安齋秀樹)